

平成 25 年度 事業計画書

目 次

I 平成 25 年度事業計画（総括）

- | | |
|--------|---|
| 1 基本方針 | 1 |
| 2 重点項目 | 1 |

II 事業計画

- | | |
|------------------------|----|
| 1 調査啓発事業 | 2 |
| 2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 | 3 |
| 3 資源化事業 | 4 |
| (1) 剪定枝等処理事業 | 4 |
| (2) びん・缶・ペットボトル選別事業 | 5 |
| (3) 施設管理受託事業 | 6 |
| ① ごみ資源化工場ほか施設管理事業 | 6 |
| ② 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 | 7 |
| ③ 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 | 8 |
| ④ 札幌市リサイクル団地管理事業 | 9 |
| (4) 大型ごみ収集センター管理運営事業 | 10 |
| 4 事業系ごみ収集運搬事業 | 11 |

I 平成 25 年度事業計画（総括）

1 基本方針

当社は、平成 2 年に事業系廃材のリサイクル事業等を実施するために設立されたが、その後各種リサイクル施設の管理運営や事業系ごみの収集運搬事業などを開始し、現在札幌市の廃棄物処理行政の一翼を担う法人として、都市廃棄物の適正処理と減量・リサイクルの推進に大きな役割を果たしている。

札幌市では、家庭ごみの有料化と新たな分別収集を柱とした新ごみルールを平成 21 年から実施するとともに、事業系ごみの減量・リサイクルに向けた普及啓発等を進めてきた。これらによりごみの排出量は大きく減少する一方、「びん・缶・ペットボトル」「容器包装プラスチック」などの資源物量は大幅に増加した。

こうした中で、公社所有の資源選別施設及び札幌市から管理委託を受けているリサイクル施設の果たす役割は大きくなってきている。

他方、当社の収益の 80%以上を占める事業系ごみ収集運搬事業は、収集量が平成 13 年からの 10 年間で約 35%減少するなど、厳しい経営環境にある。

こうした状況を踏まえながら、当社の設立目的である「清潔で快適な都市環境の確保と資源循環型社会の推進」に向けた取組みを引き続き進めていくとともに、経営環境の変化に適切に対応した事業運営を行っていく必要がある。

平成 25 年度は、事業系ごみ収集運搬料金の値上げを 4 年振りに実施するが、これによる収益増加は札幌市の処分料金値上げ分に相殺され、更に収集量の減少傾向が続くなど、厳しい状況で推移するものと見込まれる。

引き続き顧客満足度の向上に努めながら、収集運搬体制の見直しなどの効率化を進めるとともに、将来の事業につながる新たなリサイクル技術の研究開発に取り組むなど、今後の経営環境の変化に適切に対応した事業展開を図っていくこととする。

また、一般財団法人（非営利型）への移行からほぼ 1 年が経過し、新たな公益法人制度に従って順調に運営を行ってきたが、今後とも事務・事業の見直し、積極的な情報発信、環境マネジメントシステムの的確な運用などを進めながら、円滑で適正な業務執行に努めていく。

2 重点項目

- (1) 顧客満足度の向上
- (2) 事業系ごみ収集運搬事業の効率化
- (3) 新たなリサイクルへの研究開発
- (4) 事務・事業の見直し及び経費の節減
- (5) 顧客や市民への積極的な情報発信
- (6) 環境マネジメントシステムの的確な運用
- (7) 一般財団法人としての円滑で適正な業務執行

Ⅱ 事業計画

1 調査啓発事業 (予算額 50,539千円)

(1) 調査研究事業

① ごみ重量計量システムの実証実験

平成23年10月からごみ重量計量システムを搭載した収集車を導入して計量システムの精度、容積計量との比較などの実証実験を開始した。平成24年度末現在で7台のごみ重量計量システム搭載車が稼働している。平成25年度は、顧客の業務形態及びごみ種ごとのごみ比重などに着目したデータの収集を主眼に実験を継続する。

② 資源ごみ残さの低減に関する調査研究

中沼・駒岡資源選別センターでは、家庭系及び事業系のびん・缶・ペットボトルを国及び容器包装リサイクル協会が定める分別基準等に基づいて選別した上で、再商品化事業者へ引き渡してリサイクルを図っている。平成23年度実績では、選別時に発生する可燃・不燃残さが資源物を含めた全体量の約28%を占めていることから、これら残さの低減化に向けた対策について調査研究を行う。

③ RDF(固形燃料)生産に関する調査研究

札幌市の廃棄物施策により、ごみの減量化が図られ、リサイクルが進んできていることから、RDFの原料となる木くずや紙くずが年々減少し、これに伴ってRDF生産量も漸減している。生産されたRDFは厚別地区の地域暖房を担っている北海道地域暖房株の主要な熱源となっているため、安定したRDFの供給が課題となっている。剪定枝チップや刈草等の利用による原料の多様化とともに、減少傾向にある発熱量を増加させるための方策も含めて生産実験を積み重ねる。

④ バイオコークスに関する調査研究

札幌市では、市内で発生するバイオマス系廃棄物(枝葉草等)の更なる有効活用を図るため、近畿大学が開発した植物系バイオマス固形燃料技術であるバイオコークスに着目し、事業化に向けた調査研究に着手する計画である。公社としても、RDF生産や剪定枝等のチップ化事業に加えて、新たなリサイクル方法として、札幌市、近畿大学と共同して実用化へ向けた調査研究を行う。

(2) 普及啓発活動

当社は、資源循環型社会の実現に向けて、ごみ減量及びリサイクルの重要性について、広く市民や顧客に対する普及・啓発に努めていく。

① 広報活動

- i) 年度ごとの事業の実施状況等を報告するために「事業概要」250部を発行する。
- ii) 各リサイクル施設で実施する資源物等の組成調査、固形燃料の成分分析等及び調査研究結果を中心としたデータ集を発行する。
- iii) ホームページを通じて、公社事業の最新情報を発信する。
- iv) 当公社の事業を始め、廃棄物の処理や分別・リサイクルの取組み事例などを紹介する情報誌「アンパス」8,500部を発行する。

② 各種イベントへの参加

「環境広場さっぽろ2013」などの環境関連イベントに積極的に出展し、ごみ減量及びリサイクルの啓発に努める。

③ イベントへの協賛及び広告掲載等によるPR

「YOSAKOIソーラン祭り」「さっぽろ夏まつり」「さっぽろ雪まつり」等のイベントに協賛し、地域の発展と活性化に寄与するとともに、雑誌等の各種広告媒体を活用し、公社の役割と事業を幅広くPRする。

2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 (予算額 56,326千円)

札幌市内の少量排出事業所から排出される燃やせないごみ専用の不燃用プリペイド袋から資源物を手選別する事業で、平成21年4月から本格稼働した。

これまで不燃用プリペイド袋は札幌市の埋立地で埋立処分されていたが、袋の中に混入されているびん・缶・ペットボトル等の再生可能な資源物のリサイクルの推進等が課題となっていた。本事業の実施によって資源物のリサイクルの推進と埋立地延命化が図られている。

(1) 処理計画

① ごみ受入量 2,400 t/年

② 資源物の選別品目等

選別する資源物、及び選別後の処理は、次のとおりである。

選別品目	選別後の処理
びん・缶・ペットボトル	手選別施設で一括選別後、中沼資源選別センターに搬入して、リサイクル品目ごとに再選別する。
その他金属 電線	金属再生業者に売却する。
軟質プラスチックなど	ごみ資源化工場で固形燃料の原料としてリサイクルする。

(2) 運転・運搬計画

① 受入日 土・日曜日及び1月1日～3日を除く毎日

② 受入時間 8時30分～17時00分

③ 施設運転日 土・日曜日及び1月1日～3日を除く毎日

④ 施設運転時間 8時30分～17時00分

⑤ 資源物及び残さの運搬 コンテナ（フックロール）で運搬する。

3 資源化事業 (予算額 1, 101, 566千円)

(1) 剪定枝等処理事業 (予算額 54, 011千円)

剪定枝等処理事業は、これまで焼却や埋立処分されてきた剪定枝、伐採木などをチップ化してリサイクルを図る事業で、ごみ資源化工場旧チップ工場破碎施設を使用して、当会社の自主事業として平成20年10月から開始している。

搬入された剪定枝や伐採木などは、破碎処理の工程を経て、スクリーンで大きさ45mm以下のチップに選別され、堆肥や畜舎の敷きわら、木質燃料などに利用されている。

① 処理計画

- | | |
|-------------|------------------|
| i) 剪定枝等受入量 | 4,900 t /年 |
| ii) チップ生産量 | 4,700 t /年 |
| iii) チップ販売先 | 堆肥生産事業者、牧場運営事業者他 |

② 運転計画

- | | |
|------------|-------------------|
| i) 受入日 | 日曜日及び1月1日～3日を除く毎日 |
| ii) 受入時間 | 8時00分～17時00分 |
| iii) 施設運転日 | 日曜日及び1月1日～3日を除く毎日 |

③ 受入する樹木

街路樹、公園、建設工事等から発生した剪定枝、伐採木、伐根で受入条件は次のとおりである。

- ・幹は直径80cm以内で、長さが2m以内の剪定枝などの樹木
- ・根は最大寸法（直径または長さ）が1m以内の土を落としたもの

④ 料金（消費税込み）

- | | |
|----------|----------------------|
| i) 受入料金 | 119.7円/10kg |
| ii) 販売料金 | 500円/t（大口販売先は200円/t） |

(2) びん・缶・ペットボトル選別事業 (予算額 883,836千円)

平成10年からの「びん・缶・ペットボトル」の分別収集開始に向け、札幌市の要請を受けて東区中沼と南区駒岡の2ヶ所に、混合された「びん・缶・ペットボトル」を種類毎にリサイクルする資源選別センターを建設し、平成10年10月から稼働している。

家庭から排出される「びん・缶・ペットボトル」は札幌市から処理を委託され、事業所から排出されるものの処理は公社の自主事業として実施している。

搬入された「びん・缶・ペットボトル」は国及び国が指定した容器包装リサイクル協会が定める分別基準により選別・圧縮・梱包等の処理を行い、再商品化事業者へ引渡し再生利用を図っている。

平成21年7月からの家庭ごみ有料化に伴って搬入量が増加したが、中沼資源選別センターでの稼働時間の延長や中沼と駒岡の両資源選別センターでの搬入量調整等によって効率的な施設運用を図っている。

また、不燃用プリペイド袋リサイクル事業で選別された、「びん・缶・ペットボトル」を再選別し再生利用の向上を図っている。

なお、駒岡資源選別センターの手選別業務は、知的障がい者に雇用のお場を提供するため福祉団体に委託している。

① 処理計画

i) 処理計画量	家庭系	34,100 t/年 (94.7%)
	事業系	1,900 t/年 (5.3%)
	計	36,000 t/年 (100.0%)

ii) 処理計画内訳

中沼資源選別センター		駒岡資源選別センター	
家庭系	23,000 t/年	家庭系	11,100 t/年
事業系	1,400 t/年	事業系	500 t/年
計	24,400 t/年	計	11,600 t/年
※事業系には、不燃用プリペイド袋から選別された資源物300tを含む			

② 運転計画

- i) 受入日 土・日曜日及び1月1日～3日を除く毎日
- ii) 受入時間 8時30分～17時00分
- iii) 運転日 土・日曜日、1月1日～3日、定期整備及び点検日を除く毎日
- iv) 運転時間

中沼資源選別センター	駒岡資源選別センター
8時30分～20時45分	8時30分～17時00分

(3) 施設管理受託事業 (予算額 144,821千円)

当社は、札幌市から4箇所のリサイクル施設等の施設管理業務を受託しており、同市のごみ処理計画及び運転・運搬計画等に基づき、札幌市から委託を受けて施設の総括管理などを行っている。

① ごみ資源化工場ほか施設管理事業 (予算額 71,017千円)

札幌市は、事業系の木くず等の適正処理及び再資源化を図るため、平成2年3月、全国に先駆け事業系木くず、紙くず等を利用して固形燃料(RDF)を生産するごみ資源化工場を建設した。

当社は、札幌市より施設管理業務を受託し、搬入ごみの計量、手数料徴収、ごみ資源化工場と篠路破碎工場の施設運営に関する総括管理を行う。

i) 総括管理業務

ア 管理対象施設

- ・ごみ資源化工場
- ・貯留サイロ
- ・篠路破碎工場及び破碎工場附帯施設

イ ごみ資源化工場処理計画

- ・ごみ受入量 19,800 t/年
- ・固形燃料生産量 17,300 t/年
- ・固形燃料出荷先 北海道地域暖房棟
- ・固形燃料出荷量 17,300 t/年

ウ ごみ資源化工場運転・運搬計画

- ・受入日 1月1日～3日を除く毎日
- ・受入時間 8時00分～17時00分
- ・工場運転日 日曜日、1月1日～3日及び定期整備期間を除く毎日
- ・工場運転時間 7時00分～22時00分
- ・固形燃料及び残さの運搬 コンテナ(フックロール)で運搬する。

エ 篠路破碎工場処理計画

- ・ごみ受入量 12,100 t/年

オ 篠路破碎工場運転・運搬計画

- ・受入日 日曜日、1月1日～3日及び定期整備期間を除く毎日
- ・受入時間 9時00分～16時00分
- ・工場運転日 日曜日、1月1日～3日及び定期整備期間を除く毎日
- ・工場運転時間 8時00分～17時00分
- ・可燃物等運搬 ダンプ車で運搬する。

ii) 計量業務

ごみ資源化工場に搬入されるごみの計量と手数料の徴収、固形燃料搬出量などの計量を行う。

- ア 業務日 日曜日及び1月1日～3日を除く毎日
- イ 業務時間 8時00分～17時00分
- ウ 一般廃棄物処理手数料 130円/10kg
- エ 産業廃棄物処分費用 130.2円/10kg (循環税相当額分含む)

② 中沼プラスチック選別センター施設管理事業（予算額 34,867千円）

札幌市は、平成12年7月から家庭系「容器包装プラスチック」の分別収集を開始することとし、国及び容器包装リサイクル協会が定める分別基準に適合するように、選別・圧縮・梱包等の処理を行う中沼プラスチック選別センターを建設した。

処理された「容器包装プラスチック」は、同協会を通じて再商品化事業者へ引き渡され、再生プラスチックや高炉還元剤などにリサイクルされている。

当社は、平成20年10月から札幌市より施設管理業務を受託し、同市が別途発注している関連業務の監理を含めた総括管理等の業務を行っている。

i) 処理計画

ア プラスチックごみ受入量	29,800t/年
イ 引き渡し量	25,467t/年

ii) 運転・運搬計画等

ア 受入日	土・日曜日及び1月1日～3日を除く毎日
イ 受入時間	8時30分～17時00分
ウ 運転日	土・日曜日、1月1日～3日及び定期整備期間を除く毎日
エ 運転時間	8時30分～17時00分
オ 残さ運搬	コンテナ（フックロール）で運搬する。
カ 引き渡し	再商品化事業者へ引き渡す。

③ 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 (予算額 16,458千円)

札幌市は、平成21年7月から「雑がみ」の収集を開始した。収集された「雑がみ」は、中沼雑がみ選別センターで選別・圧縮・梱包され、民間事業者によって再生紙としてリサイクルされている。

当社は、札幌市より同センターの施設管理業務を受託し、同市が別途発注している関連業務の監理を含めた総括管理等の業務を行っている。

なお、この施設の二次手選別作業は、知的障がい者の雇用を促進するため札幌市が福祉団体に業務を委託している。

i) 処理計画

ア 雑がみ受入量	14,580t/年
イ 引き渡し量	
雑がみ	10,490t/年
主要古紙	909t/年
計	11,399t/年

ii) 運転・運搬計画等

ア 受入日	土・日曜日及び1月1日～3日を除く毎日
イ 受入時間	8時30分～17時00分
ウ 運転日	土・日曜日、1月1日～3日及び定期整備期間を除く毎日
エ 運転時間	8時30分～17時00分
オ 残さ運搬	コンテナ(フックロール)で運搬する。
カ 引き渡し	民間事業者へ引き渡す。

④ 札幌市リサイクル団地管理事業（予算額 22,479千円）

札幌市リサイクル団地は、廃棄物の減量・リサイクルを総合的に推進するモデル的な廃棄物の処理施設群である。団地の基盤整備については、札幌市が平成6年から平成8年にかけて行い、処理施設の建設・運営は、民間処理業者、第三セクター及び札幌市の3事業主体が各々行っている。

団地内には「リサイクル資料館」と福利厚生施設「ふれあいホール」があり、リサイクル資料館の1階では、団地内で操業する各施設の処理工程パネルやリサイクル品等が展示され、2階は団地見学者への総合的な説明の場や、研修・会議等の会場として利用されている。

当社は、リサイクル団地参入企業間の連絡調整、共用施設や団地内道路の維持管理等の業務を札幌市より受託している。

業務内容

- i) リサイクル団地の連絡調整・見学対応等業務
- ii) リサイクル資料館・ふれあいホール・井水ポンプ室の維持管理業務
- iii) リサイクル団地内市道の点検、清掃、除排雪業務
- iv) リサイクル団地雨水調整池等の整備業務
- v) その他管理業務

(4) 大型ごみ収集センター管理運営事業 (予算額 18,898千円)

札幌市では、平成9年度から大型ごみを有料化し、それまでのステーション方式での収集を廃止して戸別収集とし、大型ごみ収集センターで、市民からの収集依頼を受け付けることになった。

当会社では、平成11年度から大型ごみ収集センターの管理運営業務を札幌市より受託している。

① 事業計画

i) 業務内容	大型ごみ・リサイクル品の収集受付及び収集作業を円滑実施するための総括調整	
ii) 業務日	土・日曜日及び年末年始を除く毎日 (受付業務は年末年始を除く毎日)	
iii) 業務時間	8時30分～17時00分	
iv) 受付及び 問合せ件数	予 約	391,000 件/年 (変更等含む)
	問 合 せ	81,000 件/年
	計	472,000 件/年
v) 収集件数	321,000 件/年	
vi) 収集個数	777,000 個/年	
vii) 収 集 量	11,100 t/年	

② 業務場所

札幌市中央区大通西2丁目 NTT大通2丁目ビル5階

4 事業系ごみ収集運搬事業 (予算額 5,729,258千円)

札幌市は、事業所から排出されるごみの減量とリサイクルの推進を図るため、平成6年4月より事業系一般廃棄物の収集運搬を当公社に一元化した。当公社では、現在市内の約3万2千箇所の事業所から約200台の収集車両により一般廃棄物を収集運搬している。また、この様に一元化されたことで分別収集が進み、事業系一般廃棄物の年間総収集量に対するリサイクル率も24%を超えている。

収集ごみ量は収集運搬料金の基礎となる容積ベースでは12年連続で減少している。

処分手数料支払いの基礎となる重量ベースでは、直近2年間は下げ止まり傾向にあり、平成24年度には、前年度に比べて約1.2%の増加となる見込みである。

平成25年度の収集計画量は、ごみ量の減少傾向に底打ちの兆しがあるものの、4年ぶりの収集運搬料金の改定や大規模排出事業者の分別・リサイクルの推進による影響等により、総量では6.5% (容積ベース) 減少するものと推測している。

平成25年度は、ごみ収集運搬料金の改定を踏まえた排出事業所のフォローアップを行い、CS (顧客満足) 向上を図りつつ、収集運搬の効率化を進めていく。

(1) 事業計画

① 収集対象事業所

- i) 一般収集事業所 (伝票収集) 9,900 件
- ii) プリペイド袋収集事業所 21,800 件

② 収集計画量

- i) 一般ごみ 655 千 m^3 /年 (対前年見込比 6.4 %減) 104,440 t/年
- ii) 資源化ごみ 127 千 m^3 /年 (対前年見込比 10.4 %減) 10,550 t/年
- iii) 生ごみ 48 千 m^3 /年 (対前年見込比 14.9 %減) 23,640 t/年
- iv) その他ごみ (プリペイド袋等) 143 千 m^3 /年 (対前年見込比 0.04%増) 23,690 t/年
- v) 再生可能品 (びん・缶・ペットボトル及び缶詰) 18 千 m^3 /年 (対前年見込比 7.3 %減) 1,600 t/年

(2) 重点事業

① ごみ収集運搬料金改定に伴う対応

平成25年4月からの収集運搬料金の改定を踏まえ、排出事業所のフォローアップに努めるとともに、顧客ニーズに基づく具体的な分別方法等を提案し分別・リサイクルを推進する。

② 事業系ごみ収集運搬の効率化

収集運搬量は、平成13年度の162万 m^3 に対し平成23年度は105万 m^3 と約35%減少しており、運搬量に見合った収集体制を検討し、効率化を図る。

③ リサイクル率の向上

i) 資源化ごみ (篠路資源化センターで燃料化する可燃ごみ)

一般ごみ等に混入されている紙くず等の分別未実施の事業所の分別収集を推進することによりリサイクル率の向上に努める。

ii) 生ごみ

排出事業所における生ごみの分別を推進していく。

iii) びん・缶・ペットボトル

引き続き、未分別の排出事業所に対して分別して排出するよう促す。

iv) 不適物の適正処理

一般ごみ及び、びん・缶・ペットボトルなどの再生可能品に混入している不適物

について、排出事業所に分別の協力を依頼する。

④ 未排出事業所の訪問調査

長期間にわたって排出実績のない少量排出事業所を計画的に訪問調査し、適正処理への普及啓発を行う。

⑤ ごみ重量計量システムの実証実験

重量計量システムを搭載した収集車両2車種の実証実験を継続するとともに排出事業者単位にごみ重量データの蓄積を行い、地域、事業所規模、業種、ごみ種毎のごみ比重の検証を行う。